

## 秋田犬と飼い主の社会学

ヤマザキ学園大学動物看護学部

新島 典子

上野英三郎博士と八チ公の物語は、飼い主の死後もなお慕い続ける忠犬の物語として人々に語り継がれ、国外でも映画化されるなど世界規模で有名になった。ある秋田犬と、飼い主とのあいだの堅い絆、という感動物語は人々の心をうち、八チ公は、現代でもその地元渋谷の街のシンボルとして、コミュニティバスの名称や様々な商品ロゴに使われるまでに愛される存在となっている。

だが、八チ公ひとり(＝一頭)では、ここまで有名にはならなかったことだろう。八チ公がこれほどまでに名を馳せたのは、飼い主であった上野博士との関係性ゆえのことである。したがって、本日は八チ公に代表される秋田犬と飼い主との関係性に思いを巡らせる機会としたい。

日本犬では最初に、大型の日本犬では唯一、天然記念物に指定されている秋田犬について、その血統を管理し、保護及び繁殖を目的として、犬籍原簿等の整備や秋田犬血統書の発行等を行っているのが、秋田犬保存会や秋田犬協会などの社団法人である。秋田犬協会で長年専務理事や審査員を務めた櫻田豊氏への聞き取り調査や、各種文献資料から得たデータをもとに、秋田犬の飼い主は、なぜほかならぬ秋田犬を選び、また、どのように秋田犬を飼ってきたのか。秋田犬のどのようなところに魅力を見出しているのか。どのような秋田犬が「名犬」とされるのか。八チ公は果たしてどのような秋田犬であったのか等について考えてゆきたい。